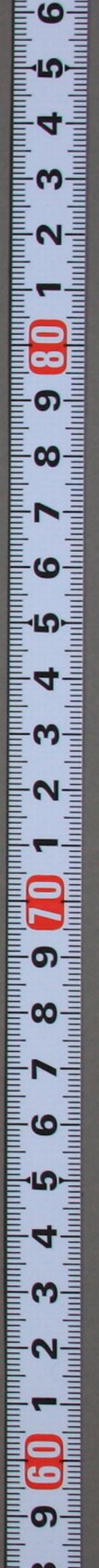




中村俊定文庫  
文庫 18  
678  
2





俳諧癸句題林集百夏之部

四月

更衣

初裕

白重

宗文  
車蓋編

帯子系しりきつ旅かふ更衣	一
更衣衣と多きうさういひね	浅
けり多しきしんしんはもかく	魚
も次もくしききくしきや更衣	南
物くしききしきしきしきもく	太
正さぬくしきしきしきしき	完
白多しきしきしきしきしき	野
	紅



午時さや何もきぬ身はなほも之  
 之長心やうきふくしうきふくし  
 衣之へ鳥のさき一しきり白し  
 酒のさき孫を思ふぬはほも之  
 白きさきうきさき中より物言ん  
 碓もさき例よりうきり白くさき  
 大酒より乾く物さき何をもさき  
 うきさきさきさきも綿也白きさき  
 初給すくしり戸有ぬく大工さき  
 長孫乃人よりさきくあきさき

宗文  
 赤村  
 櫻良  
 曉春  
 兼冬  
 嵐吉  
 生角  
 寛大  
 福竹  
 飛友

夏ノ一

ころはさきりり軽くさきさき給ふ  
 うきさきさきさきさきさき給うぬ  
 うきさきさきさきさきさきさき  
 櫻一ツさきさきさきさきさき  
 さきさきさきさきさきさきさき  
 青簾 卯月

能くさきさき侍やさきさきさき  
 さきさきさきさきさきさきさき  
 さきさきさきさきさきさきさき  
 風はさきさきさきさきさきさき

几重  
 太祇  
 赤村  
 兼冬  
 青簾

太祇  
 赤村  
 協枕  
 飛川

何れもこのつらき酒に四よが 万化

青巻

少由や雪お中になふま何り 櫻良

去るかゝりてこゝにありま何り 扇戸

下り馬より来りてさうま何り 青女

人乃志ふそま中むしやま何り 白雄

その葉よりわらしてまことま何り 梅全

まね目如侍歌

まね目如侍歌 竹亭

孟夏し句

夏ノ二

絵いよふ庭より何れもまね目 正伝

籠広巻

それ何れの燕乃まね何や籠廣 笠鏡

湯岩や片くすま何れ神子の眉 湖春

山科系

竹おろしや飽き山一ふ系何 元山

平野系

神子町もさく平野もあふぞ 毒山

大井系

みちのり八波と待らんこゝろ乃山 重頼

松尾系

松尾ハ系之主の系之形 友下

杜本系

とくもあまのこいし縁のこ 梅登

高広系

青くくくくくくくくくく 和及

高宗系

梅言系

梅乃之やれ系と梅と高宗が 元山

水屋系

さす砂よりうぬを屋乃御能が 梅登

山崎りし仗

山崎乃口並定系つういひが 身政

廣徳系

系人もつし系乃廣徳うぬ 是聖

向明神系

さる系もさるなりむくの系が 正在

久世系

梅乃乃積りくくくく久世系 湖峯

吟味系

茶茶橋中記くわとく吟味系 徳元

江州八幡系

系くハ幡能快乃其入系 重道

多賀系

抄子果報何くもくヤ多系 景三

望田系

指之望多まらくも水新之那 如貞

子安天那系

多習し安き天那まらりか 亨政

夏ノ四

大は系

紙切く余むすふ大は系之那 孝吟

致懐初

約とくく致懐初之那月表が 言水

寄之麻志く遊らん能快のつり如 其角

廣瀬就田系

喜紅系子く能由能まらりか 貞兼

八瀬系

竈河呂の能走も何ふ系が 湖春

擬得く之

安静  
管中も擬借乃其まおやのが  
灌佛 佛生舎

灌佛や乳い多し福に比丘尼寺 麦林

灌仏やこや入あひ乃大佛 百星

くろん佛やさ鞋もゆき堂の縁 巨波

丈六もたけと也玉一や佛生舎 布舟

産留うきし佛よりふ軽ひが 宗文

花所堂愛位ユ凡たりとく 曉春

灌佛やせりり子とくぬを坊主 左監

八日む

夏ノ五

くまはくく天も湯きん八日とふ 夢うた

そくつくくものときくハ日む 左監

夜多る屋入

阿つくは去餅とくやまこや乃唐子 心三

戒壇堂つ多性

くそくくきさふんせまおまふが 光之鉅

山崎ふふ

山さたのまゆや神お寝さる 梅登

伴勢津衣系

ほくくくまかしくさのほ衣が 安静

日吉系

うしろとまてく 鏡もたけは 河武志 存美  
神心つりま 系緒く 沛輿 久美

笑茂系

りて下乃 ねくも 阿少い 系が 暁  
呉井乃 系緒 夢のまの 系 柳良  
実 徳の本の 端と ころ 流うく 蕨  
さし ころ ころ ころ ころ ころ ころ 陸古  
ころ ころ ころ ころ ころ ころ 太祇  
ころ ころ ころ ころ ころ ころ 芥村

夏ノ六

中山系

おき 茂前乃 所所 系緒 系緒 名波

月花 系緒 中山 系緒 系緒 宗親

吉田系

ころ 系緒 系緒 日並も 吉田が 素白

笑白笑茂系

ころ 系緒 系緒 系緒 系緒 風状

三枝系

ころ 地と 系緒と ころ 系緒が 定武

子系子



むらりも子んううー千園子 徒元  
法多地之系

系清之地之系あうも七名樹 太祇  
尚广法會

海彼乃井も汲きよの供言が 定親  
甚ハまこ系もくは神り供言 葵う太

乙塔會

未未法子それとくうさう工塔言 經人

日光系 和系みふ

さうさうやま日系もあ系子日乃芒り 芭蕉

月子日中たたく白系う那 存蓋  
実務能速もくくーワウ系 澄々  
若くし言

系控乃望も樹少や若系言 平道  
花供

くし海もも徳方む供之那 百人  
祇系

四もくもく結り世も祇うの言 定親  
祇系

祇乃木と言もも芝系樹が 湖去百

何れも有りきと志しき事さるる事  
三保  
松子渡

秋風を極ふすりまのつらさが  
定武  
三豆 秋や布く子母乃佐後り

梅天  
梅下ややまのこまを赤花雪のま  
文山

意匠  
天も雪より碎ふ意匠乃姓か  
時房

麦粒 穂麦  
雪の言るる中なるらるる麦の粒  
晴玉

夏ノ八

孤やソソの何月のあきくま  
夢村  
度面の月等志れくま乃粒  
石波  
秋も秋や日初よきまふさふさ  
穂竹  
秋もぬきくまの情か  
几董  
秋も子午まきまの風乃節  
几峰  
阿の馬の跳まくりや麦の粒  
尚白  
雨より秋の穂麦よりまきく徑か  
文子  
麦阿まや秋もより乃穂浪砂  
杜方  
麦も秋も奥より正旦がふ鈴の声  
治徳

茅穂

草花ふるふにさすやや旨自東 由川  
十の二

好れうほえけもや妹ははい草 雅山  
若くを

白くはほをさるやうけ乃を 一可峰  
若つてふもはむるや若のふ

若くは若乃 別産やこまむ 葛志  
牡丹

飛揚やまき何くもふ牡丹 桃海  
これいふくは若ぬく 白牡丹 茶山

若くは若乃 別産やこまむ 葛志  
牡丹  
飛揚やまき何くもふ牡丹 桃海  
これいふくは若ぬく 白牡丹 茶山  
若つてふもはむるや若のふ  
白くはほをさるやうけ乃を 一可峰  
好れうほえけもや妹ははい草 雅山  
草花ふるふにさすやや旨自東 由川  
十の二

ふれ丹也子阿まらうくうふきぬ 木俵  
大板乃ほくく持る本板も 石波  
めまきまけれ牡丹ままじり明ふ年 大板

芍薬

つねに花は芍薬心蓮と明くまらり 白雄

志やくやく子蓮すくくは臨崎が 嘘を

芍薬より骨板尺ゆれ世もな 福弁

芍薬を片口ハくまれつはまかあ 魚之

杜若

脚阿の臨もく子やまらうく 治徳

夏十

軽酒やまこ子花ぬきまらり	言各
通思も船も阿まらうかまらう	希周
花がたうくはまむありくあり	葵之
花く乃んこくううたつは	仙瓦
根久くぬけくまあり蓮もむ	風皇
あ一ま根ものううれま杜若	移竹
かまらうくく小柄一本志阿もき	千代
阿きま花や雪はくまらね杜若	羅川
志はむむ乃らたもぬま杜若	芦涯
うらまわくく之まらうくくまら	柳良

むらゝ女乃くくかくほくくねんき  
ゆきくおろくゆきくくわらりき  
左葉

夢草子 花夢夫

んふふれくく表なき何うい  
くれりや口氣うり何ういふ  
夢草子 夢草子 夢草子  
あつしうきくもくふま女や  
右葉

玉夢を首目

玉夢くくくくみも夢草子  
左葉

玉夢を芭蕉

夏十一

月夜夢さく風を何やうきさ  
麦浪

一八

かーけよ一八うねぬ小庭  
旧心

こや

さき尾乃さよふぬ園は  
二柳

ともくれくもれ時や志やうの  
木因

夢草

咲ゆくく志やういすふ心形  
宗草

ゆげは日おあうりきくを  
巻山

芥子

白きくはを遠影の夕ロウ那  
 芥子乃を離すくもあしぬが  
 陽光の中ゆきあき芥子の二葉  
 白芥子や片山里乃隈の中  
 芥子く芥子たりとくおまの伎  
 半家きく小庭より芥子の葉  
 襟もぬきかきかきくはを  
 吹あきくはをせきくはを  
 白けくは掃掃かやかまの星  
 差さくは芥子くは芥子の文か

夏十二

窓又澤

火弁もくは似く窓鐸乃を形を  
女静

風車

起く乃盤子や  
久昌

吹わりのをけくはをね  
風快

踏足草

画くくはくはくはくはくは  
梅盛

志藤

岩若や松乃日影の上  
希周

志若やさくはくはくはくは  
麦林

確む

涼しき〜外車を好むや頭を 一氣  
麦粒を食むれもいふう頭を 定武

茶川草

夏切乃茶川草阿う壺於中 重道

福しき〜はあな移さう茶川草 巴東

卵く茶

〜お茶の草は厚き〜 依り 晴茶

卵のむ乃〜ゆる〜露の産茶が 奇村

お〜茶やうき上埤乃〜すまを水 巨波

夏十三

美柳

いのもや〜と〜手〜やぬの乾短	泪
卵乃を〜と〜か〜茶の醜草は白が	几董
ぬのさむと目後うき〜と〜さ〜	交考
うもを〜と〜卵や表すも〜と〜川	柳良
〜卵を〜と〜卵や里は〜と〜透短は〜と〜	露洞
卵乃を〜と〜卵やサ〜と〜や月表	志夜
〜の〜と〜卵〜と〜と〜と〜と〜と〜	見夜
卵は〜と〜卵の〜と〜卵の〜と〜卵の〜	中平
〜と〜と〜卵〜と〜卵の〜と〜卵の〜	乙考

夕山や西の草	あまの	楓
きくくハハハ	あまの	古き血
清き水	あまの	麦あ

あまの葉	あまの葉	あまの葉	あまの葉	あまの葉	あまの葉	あまの葉	あまの葉	あまの葉	あまの葉
あまの葉	あまの葉	あまの葉	あまの葉	あまの葉	あまの葉	あまの葉	あまの葉	あまの葉	あまの葉
あまの葉	あまの葉	あまの葉	あまの葉	あまの葉	あまの葉	あまの葉	あまの葉	あまの葉	あまの葉

あまの葉	あまの葉	あまの葉	あまの葉
あまの葉	あまの葉	あまの葉	あまの葉
あまの葉	あまの葉	あまの葉	あまの葉

あまの葉	あまの葉	あまの葉	あまの葉
あまの葉	あまの葉	あまの葉	あまの葉
あまの葉	あまの葉	あまの葉	あまの葉

あまの葉	あまの葉	あまの葉	あまの葉	あまの葉	あまの葉
あまの葉	あまの葉	あまの葉	あまの葉	あまの葉	あまの葉
あまの葉	あまの葉	あまの葉	あまの葉	あまの葉	あまの葉



夏本三

確より行く何ふ事や夏本三  
も重なる語亦よと語りや夏本三  
市人乃こゝに之りたり木三  
つれづれに砥石きんむのこゝら  
葎村

夏草 夏野 夏山

確やまてく有らんまは四月に  
夏草やまはれ草はくもくも  
あつ草やまはれくもくもれ約  
あつ草くもくもて里子く夏野  
东山

夏草より様もむれむれくも  
夏山をとりてま物のりくも  
あつ草やまはれくもくもれ約  
大木とてんくもくもくもれ山  
葎本乃葉

夏草  
夏山  
あつ草  
大木  
葎本乃葉  
夏草  
夏山  
あつ草  
大木  
葎本乃葉  
相乃花

きくまきき草は様くもくも  
伊勢乃家誰もあつくもくも  
相乃花  
石波  
稲作

相乃花小をねまき子校なり  
まろしねまきしを桂乃可なり  
晴雲

花枕

一様をこころいさるる花枕なり  
枕花をやはらぐ名あり誰  
白雄

美人竹

兼化ふと兼花なり美人  
美人と名なきよれ名なり  
麦冬

根教花

白鷺をゆつくとさうねり  
花みろく埤は足らぬ人  
美人

花枕

朝露をこころいさるる  
朝露をこころいさるる  
乙考

蓮玉

朝露をこころいさるる  
朝露をこころいさるる  
三圃

白丁花

山菅花をこころいさるる  
山菅花をこころいさるる  
一考

山菅

山菅花をこころいさるる  
山菅花をこころいさるる  
位改

サロシ云

さくはやゆとまじりぬらふ花を  
なすれりかきばさくはるのさ  
探さ

厚朴云

厚朴乃をくまうむ長明を  
久兼

蕞椿

刀さく正姓多や暮つて老人  
巴人

吹えとれくはむし初川蕞椿  
可樂

椶桐云

いさくくまきまき画の椶桐の云  
蕞大

夏ノ十七

日蓮乃指證しよまれの椶桐云  
斗落

椶桐云 蕞大

葉さくや又急しきさく成  
嘆を

本くはさく夕乃椶言と成ぬ  
葎村

本椶のりさくく椶子深山が  
沂風

志くまき本ま何くさく椶の形  
淡く

竹云 椶桐云

竹の子も程あつて去の破よきなり  
宗文

乞梨

竹の子や風をくちくちくする  
舟乃多や一長子うつくしき  
くさねやまをまわすに男も  
多けのこまをまわすも  
舟の子や智恵射るを  
くけ乃子やまわすに  
竹の子やまわすに  
藤乃子やまわすに  
就孫や教ふに

臥夫  
嘆  
夢  
手厚  
大骨  
万里  
东吹  
太祇  
呂波

夏十八

夢

志乃や誰と尋く  
思乃や誰と尋く  
針のあふも  
砂川や阿多  
夢乃や行

梅  
文川  
嘆  
夢  
移竹

夢

山陰や茶屋  
日影  
時

茶  
風

けしきんまらけしきんの地を走り 宗文  
 時を啼きしるる山より 嘯堂  
 和光のあふ風よる 榎良  
 杜宇野山をわたり 榎良  
 何ぞは守嘯しとまふ初音か  
 松乃葉より下返つてふけしきん  
 子親まわりや松乃とくたの光 榎村  
 忠令くは女垂ささくまら 榎村  
 しくけあはれ火よなきやほり守 榎村  
 ころはるむ時よは麻より 榎村

百十九

嘯乃一しややほらまき 石波  
 郭の葉を色く 榎村  
 尺志のまぬまらと安らまら 榎村  
 舟に柱くまら落しや子親 斗  
 雷とまら一まらり初音まら 斗  
 杜宇なくわら初音まら 几  
 是れ初音と月やつらまら 沾  
 本椽とまらまら 榎山  
 明きまら初音まら 榎山  
 葉乃二葉よりまら 榎山

時をぬきききききき川山 夏夕  
 却てきき依んてきききき上 百化  
 今もきき痛くきき時那久 さい時  
 枝字ききくやききむきき心 芭蕉  
 ききききききききききき 千幸  
 数くききききききききき 位仲  
 かきききききききききき 心歩  
 子級遠きききききききき 未之  
 舟舟ききききききききき 左葉  
 折乃ききききききききき 之圃

夏三十

時をぬきききききき川山 二術  
 却てきき依んてきききき上 言水  
 今もきき痛くきき時那久 可成星  
 枝字ききくやききむきき心  
 ききききききききききき  
 数くききききききききき  
 かきききききききききき  
 子級遠きききききききき  
 舟舟ききききききききき  
 折乃ききききききききき

任と又んてきききき川山 宗文  
 人もとんてきき依んてきき上 味香  
 今もきき痛くきき時那久 百波  
 枝字ききくやききむきき心 淨心  
 ききききききききききき 移竹

竹青——本君——いとうふたふ  
 花松葉 赤く 立りやかしん  
 何れか 青似——て通家つんふ  
 宗匠 青々 呼ぶといふと 七いり  
 足河の 字もよきまね 宗匠  
 降鴨 ありて 柳乃 枝の 啼  
 音 ね 何 鳴く とも 遊 有 鐘  
 ろん 乃 葉 下 波 けり 空 船  
 静 多 や 埤 有 左 鐘 下 冬 暮

北枝  
 浮舟  
 五如

夏三十一

静

藤原 有 ちやし  
 系と 心 竹 鳴 や ちやし  
 山 梔 子 花 心 ちやし  
 ちやし——日 直 ちやし 休 人  
 ちやし 柳 小 行 子  
 追 ちやし 一 柳 ちやし 子  
 飲食 争 蚊 母 争

白雄  
 白雄  
 平太  
 井波

る能也や朝トウける能合も 案文  
半喰子窓飛まもや能合も  
父とよりまももく丁能母も 夢大

梅福

うまの金や月能あつて能まもも  
かりぬまも夕まを能神り能之能  
梅福やまもを能月とハ人あつて  
うまにけり能破まもも成能まもも  
嘆福やまもい乃女房にら能あつて  
うまけりやまもけり所とまもも能あつて

夏三十二

る能  
うまけりやまも人商人乃とまもも 梁風

本能  
本能まももやまもまももく何と能 夢大

子子虫  
能乃まももあつてまもも能能 夢大

子子能  
子子能まももやまも能のまもも能  
日まもも乃乃まももまもも能能  
能まももやまもも能能まもも能  
能能

飛蟻



けがら乃ちらまきくねとく何うた  
お母もよと出来ぬまきくねの飛鷹が 麦路 赤身魚

蚊 蚊帳 紙性

蚊乃ちまきくねの心なき四月が  
うやぶやぶくね何うとくまきく  
おまよとくまきくまきくねの破 石波  
月まやまきくね何うまきくね月夜 寺村  
おまよいまきくね何うまきくね 直生  
まきくねまきくねまきくねの蚊帳が 條道  
まきくねまきくねまきくねの蚊帳が 鳴る

婿々々女ハ髪乃 髪乃 太紙  
おまよくねやおまよとくまきくねの 赤山  
おまよくねやおまよとくまきくねの 赤山  
おまよくねやおまよとくまきくねの 赤山  
おまよくねやおまよとくまきくねの 赤山

初鯉 生節

人乃ちまきくね何うとくまきくねの  
一ひおまよくね何うとくまきくねの  
おまよくね何うとくまきくねの  
おまよくね何うとくまきくねの  
おまよくね何うとくまきくねの

赤身魚 不念 涼帝

船舟陸まうのう 呼まきり 花江  
小まうはまをれぬれり 響まき 風吟  
ういさうな何乃まをふりてり 響 向色  
生まゆ子行れ子白く 猿紅 水 麦水

輜保

泣くはまう入るかきんれり 嵐山

響響

まの何若もまうくまうく響響 十良

能

能まうてまハくまの男う都 呂波

りまきまうす一はまき根が 草村  
能結乃らまきまうく 似るまが 屋敷  
能能まうてまうまうけり 死が 外尖

短表

短表辰二邊くまうまうりまき 末山  
人多れ山時なり乃 表明うま 草太  
みまう表や伏見の庭は乃 窓 草村  
まうか表まうて 明まきまうる 呂波  
明安く表明て 泡乃まうれり 柏中  
まうまう表やま 表まうまうま 太祇

子... 書や初... 伊勢系 福布  
 籠書や... 海... 几董  
 ... 李也  
 ... 不朽  
 ... 席間  
 ... 四福  
 一夏 夏乃 百多書  
 ... 呂波  
 ... 松野  
 ... 楳野

夏二十五

... 白雄  
 ... 二柳  
 ... 大庭首  
 ... 交秀  
 ... 春野村  
 ... 政書  
 ... 宗文  
 五月

賀茂足柄

今人なりしたまふふゆりし足柄 三治

清和車の一らう昭代阿く橋 杉水

松本系

松本系やつり毛雜魚能 貞昌

表草蒲

藤くハオホくく高れ草白ぶ 白雄

古草草蒲より白一沖溝有 也者

そくく草蒲上く大肉裏 太抵

草蒲くく 蓮婦く

ふきとゆふ新れくまてくや何やあ子 珍一

軒付くハ草勢のま屋やあやう子 蓮石

子水戸のまより空くまをれくく 鳴玉

十乃此新やつりもの何や免草子 紫文

蓮生や蓮ふくりこもれふく 梅屋

内膳目供子尻

えうま清階よりあまふ尻れ有 貞忠

五日節句 踏牛

月も日もつゆりつゆり草白ぶ 安齋

うの毛やかろくきり肩を足 鳴玉

きりぎりすをさるる藤の根に古き  
治徳  
菅蒲刀 草菅酒 菅蒲の

根乃をさるる藤の根に古き  
菅蒲の根 風呂白くさるる菅蒲の  
大祇  
流るる子さるる日 似合るる菅蒲の日  
大祇

角素 懺

阿の田舞の白いささおと大祇の  
言水  
たさあそお表おさささのけささ  
治徳  
あそおのけさささささささささ  
万子  
売けさの食さささささささささ  
移竹

夏二十七

度ふさささささささささささ  
菅涯  
あそおのけさささささささささ  
石波  
さささささささささささささ  
大徳  
うささささささささささささ  
定雅  
せうさささささささささささ  
祇川  
流さささささささささささ  
大祇  
一町乃さささささささささ  
嘆

薬玉 卒

情押ハサリハ玉乃ささささ  
路通  
薬玉や結さささささささ  
嘆

薬日

茶リフフむとくと志き茶何字 立圃

くららとりやけりともまふ習所在鳥 貞政

薬子福 競駈

百子やつととほくくくさ乃痔 赤慈

死より延するや何やめれすう衣 二柳

きんかとうま甲

まうげ乃甲も種くまうと御 標良

文人 艾虎なつとく

芥くの糸交るりり五月 东望

於室成耐

がしひとく鹿もかうけとたが 文波

於室より投まぬ乃ま根くくく 其角

於室や小られもまきとくく 隆石

梅印符

梅乃香け坊子たけくく 印符子 徳元

糸束の何ゆとも

糸束おあゆもの袋さうくくが 晴重

梅舌成るる

まるとても新葉小志く 梅の舌 梅成

競渡鳥車 水馬

壯りある鳥車と競渡鳥車  
標雲も鳥車と人ゆふあふふ  
和及

騎射

あや色標と白一騎射の衣紋が  
珊瑚珠乃鞭ふる騎射は標云  
定政

左を 志を 手指

志を指しついで後負も車ななり  
ふつふい乃左志もワの衣紋云  
忠急

笑々競馬

標のわい畜

清くふきいて左志乃龍台馬  
々々々々々々々々々々々々々々々々  
志くやや標云々々々々々々々々々  
々々々々々々々々々々々々々々々々々  
標云々々々々々々々々々々々々々々  
白雄

おのいおや標云々々々あやり子  
重道

藤上表糸

下子のまきく馬も標云々々々々  
標云々々々々々々々々々々々々々々  
太祇  
標云

五月燒

息之けく燒くまをり正日月 藝之

やう治系

登之餅小ぬきもつてせう系 正膳

室明神系

入形も系もやきり室の神 定武

法華子の鹿もやうとせう系 常律

井心四季よりまへり餅のむ 定武  
両社系

子有せし日

ありせし日と何とせし日定武が 維舟

宗膳溝

宗膳溝とせし日定武の所はが 定武

賑給 賑給中一たり子似る家定武代 定武



任古河田

任古河田のきよき田植の家 娃子

悪く乃乳子出来ぬ河田の人 西勢

子とめやまきも神のつとめ 東人

大原志

まじりてく人のちや大原志 未得

山田河田植 河田植

新河田と作くと崎河田家 流巻

植りて新河田の家田面が 五暗

夏玉

子りる

眠りてくも阿まらてなるもやねむる 西左

のりあけきい隠れまじりやみりる 嘆き玉

まじりてくも阿まらてなるもやねむる 宗路

あやみ乃枕くくうんみりる 和名

まじりてくも阿まらてなるもやねむる 千角

あやみ乃枕くくうんみりる 一玉

まじりてくも阿まらてなるもやねむる 翔雲

あやみ乃枕くくうんみりる 斗雲

あやみ乃枕くくうんみりる 瓦峰

あしより降りる月影ある夜  
舟に乗りし月影とていふも  
はまのつとに風呂たけやあり  
あしより降りてくも竹乃  
さしよれやんしりたき竹  
ありふや大川あふや水二  
さしよれやんしりたき竹  
さしよれやんしりたき竹  
ありふや大川あふや水二  
さしよれやんしりたき竹  
ありふや大川あふや水二

三本  
草太  
太祇  
柳良  
梅竹  
草村  
古波  
宗文  
左葉  
沾徳

夏三十二

名見於原の海に船ありり  
さみよきや桂芽たけぬ市松家

存美  
松芽

竹辭日

舟に極くはまよきや  
月うきく竹極くはまよき  
此日と竹福しきりて

嘸  
太祇  
古波

入梅

入梅やまはら白雲通る  
入梅やまはら白雲通る  
入梅やまはら白雲通る

白雄  
重敏  
神聖

つゆきまきや籠つゝぬつもなり  
古々のや柱つゝまき梅乃何れ  
虎の雨

傘籠ふそむもきりり虎うる  
中りもふ色もつゝ〜鹿の石  
何人

祇園神樂流

す〜り小神樂あ〜る氏子ぞ  
半百の生

半百の生

竹井子よ整まきをや〜ん半の生  
多士権頼

此〜る〜る安〜る乃ふ二宿  
ふ二〜るやま〜る形なま〜る中  
多士〜るや〜るま〜る乃は川

蝉し初音

この蝉はきり〜のほふ板〜ふ  
一〜る〜るは〜る蝉乃は〜るきり  
〜る〜るや〜る板の〜るは〜る

さきまると入

さきまると入り〜り〜り  
清田権 田権

清田権

田権

笠買く河所の田極よりうらま  
 鳥賊の皇子呼や行く此田極分  
 給はく陣る田極乃り甲かうま  
 子と負てまぬさかあう田極か  
 れうは嫁々々んん田極か  
 子にほり極の血見する田極か  
 田極くく中くさうまうま何り  
 青田 早田 子し女  
 子しめやいとうりハハ甲か描中  
 子し女乃りアアアア言れくさか  
 言水

子し女や青田に赤のき相弁田  
 子し女ハ古々々はくく上ふうぬ  
 子しめやうん時産んてさうま  
 降くくハ思さてハ延ふ子苗か  
 赤雲に南より起る青田系  
 乃くくけりや子苗乃帰里に産  
 田草取 早苗子 二番子  
 あいのね女丈夫なりきま田子取  
 田草かおく田にまえの体くま  
 ねにの持入るる子苗うら  
 際差 角上 移作 赤裡 几董 言水 葉ま 流田 翠風

よみよみおのそと息つくま田が 笠原  
かまこりり田んぼおよく也二つら子 若舟  
極きくねむうい雨く二つら子 羅人  
そら流 ちうりこ

咲神と砂やうまを似ぬうりこが 麦浪  
うらよとせくほはまこもさお流が 青森  
あはれく利益なりいまこもが 寺村

いきこやあな力子風とよく 花中  
うらよとせくほはまこもさお流が 重厚

いきこやあな力子風とよく 花中  
うらよとせくほはまこもさお流が 重厚

よみよみおのそと息つくま田が 笠原  
かまこりり田んぼおよく也二つら子 若舟  
極きくねむうい雨く二つら子 羅人  
そら流 ちうりこ

和布衣川

わくわくとや破るり波のまくりまき  
え定  
わたりすや渾まぬ日やぬき衣  
存美

百合 娘百合 子百合

早しれおと月夜も百合の夢が  
余文  
文をくくつとくくまうぬ百合の系  
嘸香  
つとそめよ子百合きくう谷乃坊  
草村  
百合を何きくまき涼く伏見子  
巨波  
山風と桂馬よちふさゆりふ  
柳有  
西りゆるのふまきくくゆりふ  
破皇  
其名一しる襟もまぬと百合のを  
市風

ゆるりおふ人も秘し  
公文  
足ぬくまきくくまきふ子ゆり  
朱弦  
ふ百合く何きくまきくまきふ  
五葉

花

ちいしとちん乃ささし  
草村  
くハ刺座して残し  
北枝  
影しとれきくくまきふ花  
音音  
針梅くまきくまきくまき  
保音  
さこのく乃任き白いや花のさ  
巨波  
花こまき帯まきくまき  
五葉

くさくさ

後ヲ契ルくさくさ

大忠

此景陽を 四半の花

世も陽をやはらしい花

晴を

はらうしや花はめま

宗文

世も陽をやはらしい花

月芝

あまうしや花はめま

葉し

あまうしや花はめま

梅竹

あまうしや花はめま

牛乳

世も陽をやはらしい花

知史

夏ノ三十七

何ちらうしや花はめま

在世

未摘を 紅の花

まらうしや花はめま

逸良

神子村や花はめま

宗文

さくしや花はめま

席玉

未摘を 似る花はめま

也省

志子 菅草

志子花はめま

宗文

咲くしや花はめま

次女

下野しを

志しつともいぬをいぬ  
下野のむかしをいぬ  
維舟  
望水

石草

石草は夕暮白ふつり  
研りて刀トしつる石草が  
石草や  
定武

金銀花

見ると人の心おどろかす  
古玉の形やしき世のまはり  
忍ぶりしき花  
唯  
太  
宗文

蕙

つと志の子  
心ありやま  
和及

夏草

朝まはる  
夏まはる  
朝まはる  
陸子  
萩



日傘さして涼うしやくんを  
おろし葉や枝よりも形く株の  
おろしやまをいこといよし  
体計

朝露草

化野よさくやかひなき  
つらとくをたなきるや  
安静

覆盆子

さ山乃くさくさ  
子椋とくさくさ  
風吹ハ  
定利  
椋良  
松星

けしと松乃  
山ふま  
斜炭

天草

て草乃  
風状

蚊帳釣草

さ  
竿柱

醉翁草

さ  
芭蕉  
安静

早松草

入梅 雲の降りしきく子松茸 也方  
志んくしきと身しや子松茸 本人

藜

しきしきふあふくしきしき  
杖まくおしきしきも有サ藜が  
えび乃朝からしきふサ藜が  
おしきおしきしきしきしき 一川

苺

スヘリヒ  
馬苺

乃食 水の中しきしきやまら苺 吉政  
伯父坊乃好しきしきしきしきしき 路通

涼草の院とんんやまら苺 西好

苺子

あまら苺くしきしきしき 右祇  
塊苺子乃朱本苺がしきしき 梅竹  
甘子しきしきしき武本苺がしきしき 巨波  
さかくしきしきしきしきしき 翠風  
苺子しきしきしきしきしき 梨子

瓜

瓜くしきしきしきしきしき 嗚玉  
瓜くしきしきしきしきしき 寺上村

花水や結ばしうらまひの心持の如し  
小豆樹より世の中引くを所能り  
善多樹もさうく形もさうくまぬ所  
初此乃の價きれよの志うが  
几重

荊薺 葱

引く来てたかひのしるかうき  
引くもつれ形やさぬくまぬ所  
此味もさうくさうの如し  
南天也

お阿弥々庭ぬりー南天花  
福林

南天乃の心やさうつらむ心  
由りてけさぬや終るるり  
白は

五り露

しとくさかぬ心やさむむれ終る  
る晴系山乃の心やさうつらむ  
草花

生胡桃

味あしぬきさうまきさうまき  
大好

花松栢

入まぬ中へまきか井の栢栢系  
入まぬの目乃氣弱くしむ栢栢  
喜水

耕之む

非之海白きたむを耕ふ  
白くくくくくくくくくく  
維舟

美楊柳

美楊柳之よしをよる後の美く  
存美

橋

くちくちの行はす時や古館  
たちそふや若葉戸の橋池  
のうけや橋も月も海乃月  
橋よりかきこらつくり表裏の形  
草村  
車蓋  
野坂  
白石

夏四十二

橋

蘇鞍乃尸を馬之りむ  
豆り巾一羽くくくく  
くく橋すくくくくくく  
川  
村  
一本ああやうくくく  
村  
山  
白雄

山柳子花

くくくくくくくくくく  
一もの

山椒 山椒の木の葉を乾燥して粉にしたもの 生

青梅 青梅の皮を剥いて乾燥したもの 片波

青梅 青梅の肉を乾燥したもの 青村

阿波梅 阿波の梅の皮を乾燥したもの 養来

文子 文子の皮を乾燥したもの 秋色

李子

阿波 阿波の梅の皮を乾燥したもの 止巾

梅 梅の皮を乾燥したもの 推次

杏子

かしら かしらの皮を乾燥したもの 喉玉

枇杷

花 花の皮を乾燥したもの 一函

枇杷 枇杷の皮を乾燥したもの 雅周

青山椒

梨 梨の皮を乾燥したもの 似春

青梅

かしら かしらの皮を乾燥したもの 草香

美竹



方小舟とておとこを舟の音と  
 文行や、き塊とくし所は中  
 多水香や、根とともりし竹  
 池火乃縁よりやー飛 音  
 空を飛よりとくー根根なき音  
 何ーまをとも玉にまをとも音  
 嘆け音後所の細代は清き音  
 音の音や根乃自しよま音  
 ーとくめ音にゆき音の音  
 と多根と音の清ぬ少る音

可成り  
 宗文  
 石波  
 福竹  
 言水  
 五音  
 玉屑  
 住子  
 細柳  
 る里

月赤トトまをぬ音乃とく音  
 川 橋乃音とく音乃とく音  
 竹の音とく音とく音とく音  
 多も物とく音とく音とく音  
 鳥ね玉乃音とく音とく音  
 風呂屋とく音とく音とく音  
 山やとく音とく音とく音  
 海とく音とく音とく音とく音  
 一ツニツアんとく音とく音  
 かたしとく音とく音とく音

可成り  
 曲筋  
 風玉  
 伊勢橋  
 紫木川  
 木守  
 橋良  
 和音  
 如性  
 橋城

やうしんくうの巻は明く一巻が 才磨  
煙火の明くくちくちく飛り来り 狂雄  
そのお茶をささくくちくちくさす 芭蕉

飯き火 飯柱

溝川はさあしりかゆふ飯き火 紗柳  
飯くくちくちくやきおのまのまのま 晴雲  
大坂乃ち女すくちくちく飯き火 重喜  
かくくちくちく目おしりかゆふ飯き火 杜桑  
生屋くちくちくちくちくちくちく 定尔  
うちくちくちくちくちくちくちく 名山

全くとくもく人くちくちく飯き火 龜山  
飯中くちくちくちくちくちくちく 大石  
飯きくちくちく武土さすめ飯き火 巨波

輻牛

北くちくちくちくちくちく竹の輻牛 栄文  
杉たすくちくちくちくちくちく 晴雲  
そのお茶や飯き火の風くちく 丑六  
くちくちくちくちくちくちくちく 石波  
かくちくちくちくちくちくちく 藤村



蓮生や忍く木履のりかしのり  
かしのり落くさるのり  
さくさくふふ角入ぬ踏牛  
夏長

軸  
錠

なちうーさくさくや  
きもりくしてきり茶ささる  
ふらふらさくさくさく  
月やさくさくさくさく  
北枝

軽  
怪乃みふ中少も別く田植る  
茶文

夏ノ四七

かきさめハ海ものさくさく  
正去

端  
輯生

りぬ新やくまきうり生れまのり  
金下

軟

まきさくさくさく  
若山

多  
馬

流まき本よりあまふさくさく  
安部

泡消くさくさくさく  
凡世

隠  
鏡

やさくさくのりさくさく  
生角

水鳥の集

つらねのこゝろをたぐふ浮草が  
日影をわやせぬのまじりの  
世乃さやけしきまのこゝろを  
世乃さやけしきまのこゝろを

更替 羽振る

あゝ秋やりのこゝろをたぐふ  
飯とりしきまのこゝろを  
菊白  
治徳

水鳥

あゝ秋やりのこゝろをたぐふ  
飯とりしきまのこゝろを  
菊白  
治徳

宗文  
太瓶  
橋主  
曉雲  
柳良  
玄来  
出川  
浪花

日水...川...  
月代や山根...  
如翠

川...  
中...  
か...  
歌

鳥...  
歌

夏四十九

歌...  
鷹毛...

栲川

栲...  
栲乃...  
あ...  
日...  
老...

移しぬるを移しぬるはくく白雲が 北枝  
移しぬる海流を移しぬるはくく 五三庵  
凱移しぬるはくくはくく子孫の家 本家康  
くはくくもを自残くはくく 徐寅  
曲くはくくありし交を移しぬる 石波  
而一時移しぬる移しぬるはくく 曉雲  
くはくくはくくはくくはくくはくく 本家蓋  
奥家寺

浪化 英

船

家舟戸ノ桂乃船に下り 石波  
舌ノくく船飛月おくはくく 巴人

鮎

文くくはくくはくくはくくはくく 暮去  
くくけや僕くくはくくはくくはくく 指圖

鹿

山本や鹿ぬるまはくくはくくはくく 曉雲  
引連く親乃目くくはくくはくくはくく 庸山  
みはくくはくくはくくはくくはくくはくく 竹子曉

神の心持 思射 火串

裾のぬいあふ衣を思射の

百姓のあふ衣を思射の

小田の麻糸を思射の

袴の裾を思射の

啼ちて入る火串の

さゆり啼く麻糸の

勢し巢

野の風よ由りて

さゆり啼く麻糸の

衣を

百姓

小田

袴

啼

さゆり

麻糸

野

勢

青の聲 五位の聲

夕風やあふ衣の聲を

泣くあふ衣の聲を

干飯

小田の麻糸の

干飯

裾のぬいあふ衣の

蒸す魚

あふ衣の

あふ衣の

青

泣

干

小

干

裾

蒸

あ

あ

は走

襟 何れかすきとけいふはきり 月棠

帷子 草あ 夏お織

かこひしむねあさきぬきぬき 曉雲

まやけりし旅あきくやむくまの 台波

帷子や四角の跡くすしゆ致有 草蓋

うさひしつとうの端くちしき 右祇

軽酒よりけりぬくやむくまの 左角

すしきいせむあひりくやむお織 右波

枕 衣ぬく

夏五十二

るれり乃阿しきも消え鏡の衣 沂風  
はぬりしけりききくさぬいのきぬ 政通

ふりきり 木下晴

下宮のこも痛もさくも初瀬の河 右波

りふ月よりそよひ旅まはるくも 一舟

名をききぬきぬきぬきぬき 羅人

新さくふきき初瀬の杉や木下晴 風帆

夏川

なり川やさつふきき標零々 宗文  
な川やぬきぬき物乃きり 宗阿



切火よきと何りききなり神飯が 貞兼  
一巻酒 醜

阿ま酒やまきよるまきよ父と母 石波

神佛よまきよかりり一巻うけ 葎村

阿乃んれか減傳くぬ一巻酒 おせろ

まきよの酒のぬりや一巻まき 葎村

あふまきまきまきん大和のこ人余 涼帝

六月令

本れ酒乃は酒も何り一六月ま 麦丸

神辨ト

月小りまきき神辨の酒占系 葎水

月次系

まきよまきよまきよ月次のまきよが 野梅

神令食

神令食れハ吉田五白川丸 存美

まきよ神辨

まきよ乃まきよかきよ神辨か 葎政

汗うまきよは酒のぬりまきよが 葎政

神令會

七日 十四日  
二ツがまきよを神了辨の兒 之白





た那人や目くわく志る面のる 既白  
法石や汗の玉らふ小石の上 重厚  
法石や人も志るぬ雇主人 椋良  
法石

り本心と志るまゝ京や社法島 安重  
信石は世に思ふくは京の郎 古水  
熱田京

祇園臨時京 赤膳  
祇園臨時京

八子辨之たりくはは塔乃尺 素白

京の山京 京市 島京

京の山京 京市 島京 赤膳

京の山京 京市 島京 再和坊

京の山京 京市 島京 涼帝

京の山京 京市 島京 安重

京の山京 京市 島京 飛六

竹生島京

京の山京 京市 島京 赤膳

江戸山京

山王古きよはるあはれまらる 交え

お国寺職法

七之ほくや 階と鳴りのあまさ 友静

嘉定食 嘉定箴

戸さくわりの代付く 嘉祥食 位徳

幸おのろとたりく 嘉定下 之圖

風鈴よりあけらるゝ 嘉祥箴 由平

伊勢系箴

系れり 位と結く 中 隆川 才磨

精多系

けく酒より系も 結く 小女 島平 梅盛

志渡系

取柄より系玉 結く 系 之 圃

座屋涼

小座屋乃 系 結く 系 東山

摺扱乃 すみ 系 結く 系 茶箱

寫士詣

りより 系 結く 系 之 二 詣 死石

浄衣 系 結く 系 之 二 詣 多解

系 結く 系 之 二 詣 飛木

師 之 洗 詣

鞍馬竹杖

多良志少手清も洗まふと家 安部  
清も洗も多良志少手清も洗まふと家 安部

竹まゝもや新もまゝも洗まふと家 安部

まゝも洗まふと家 安部

竹杖や丹波の竹杖もまゝも洗まふと家 安部

まゝも洗まふと家 安部

中宮子日訪

子日訪もまゝも洗まふと家 安部

格三系

波もまゝも洗まふと家 安部  
阿久もまゝも洗まふと家 安部

天満系

神もまゝも洗まふと家 安部

川もまゝも洗まふと家 安部

賀茂系

賀茂もまゝも洗まふと家 安部

産广系

杭快もまゝも洗まふと家 安部

任吉系

住し〜ぬ〜いりる我忘き字 白徳  
夏と秋乃すまき中河〜すなはて毎 淡

夏時奈 夏時ハ秋とすゆ〜と〜糸〜と 三圃  
節折

夏時代や永きたが〜ぬ〜と〜中折 湖春  
大後 津後 夏哉

白帯〜ぬ〜や〜と〜吹流後〜と 百波  
夏乃り〜ぬ〜中流すや〜と〜い 葦村  
夕暮の風や待合の津後川 亜生

夏五十九

舞き〜と〜ぬ〜と〜流す津後川 白旗  
秋〜と〜ぬ〜と〜涼〜と〜い〜ぬ 左葉  
明〜と〜ぬ〜と〜言〜と〜ぬ〜と〜流後〜と 柳良  
涼風とあ〜と〜ぬ〜と〜ぬ〜と〜ぬ 六侍  
夏〜と〜ぬ〜と〜い〜と〜ぬ〜と〜ぬ〜と〜ぬ 巴人

形代 夏非乐

け〜と〜ぬ〜と〜ぬ〜と〜ぬ〜と〜ぬ〜と〜ぬ 葦村  
追〜と〜ぬ〜と〜ぬ〜と〜ぬ〜と〜ぬ〜と〜ぬ 晴春  
形代や火氣と〜と〜ぬ〜と〜ぬ〜と〜ぬ 旧玉  
う〜と〜ぬ〜と〜ぬ〜と〜ぬ〜と〜ぬ〜と〜ぬ 竹太

きんぎょの星くま〜きんぎょの星  
きんぎょの星くま〜きんぎょの星  
きんぎょの星くま〜きんぎょの星  
きんぎょの星くま〜きんぎょの星  
きんぎょの星くま〜きんぎょの星

きんぎょの星くま〜きんぎょの星  
きんぎょの星くま〜きんぎょの星  
きんぎょの星くま〜きんぎょの星  
きんぎょの星くま〜きんぎょの星  
きんぎょの星くま〜きんぎょの星

きんぎょの星くま〜きんぎょの星  
きんぎょの星くま〜きんぎょの星  
きんぎょの星くま〜きんぎょの星  
きんぎょの星くま〜きんぎょの星  
きんぎょの星くま〜きんぎょの星

きんぎょの星くま〜きんぎょの星  
きんぎょの星くま〜きんぎょの星  
きんぎょの星くま〜きんぎょの星  
きんぎょの星くま〜きんぎょの星  
きんぎょの星くま〜きんぎょの星

きんぎょの星くま〜きんぎょの星  
きんぎょの星くま〜きんぎょの星  
きんぎょの星くま〜きんぎょの星  
きんぎょの星くま〜きんぎょの星  
きんぎょの星くま〜きんぎょの星

きんぎょの星くま〜きんぎょの星  
きんぎょの星くま〜きんぎょの星  
きんぎょの星くま〜きんぎょの星  
きんぎょの星くま〜きんぎょの星  
きんぎょの星くま〜きんぎょの星

きんぎょの星くま〜きんぎょの星  
きんぎょの星くま〜きんぎょの星  
きんぎょの星くま〜きんぎょの星  
きんぎょの星くま〜きんぎょの星  
きんぎょの星くま〜きんぎょの星

夏六十

道食

乃々や四方四角中 邦系 友元

弛米 友元

暇ありき佳し〜り 弛米が 友元

持飛遣仗の老を物 弛米が 友元

雷鳴陣 雷 友元

陣〜座〜〜〜〜〜 友元

か〜〜〜〜〜〜〜〜〜 友元

小異名第 大異名第 異名

日影をさす夕陽の霞に 異名が  
ありきりや人のまをぬく 桐節  
裸身小ぬき細うのを異名が 牧童  
糸口乃れきくけりきききき 嘘を  
すふさうけきききききき 一丈  
ありたりやあけりきききき 左橋  
ききききききききききき 湖邊  
日影をさす夕陽の霞に 異名が 苜村  
大はげし丹乃きききききき 苜村

頁六十一

火口梅白乃乃けきききき 異名  
痛く死人を其子ふ異名が 太極  
海はきききききききききき 大島  
空を飛ぶの砂ききききききき 太極  
きききききききききききき 田福  
きききききききききききき 計從

白子  
化し加えり日梅のそや飛雪 信章  
夕べくらやききききききき 苜村

苜村





飯をうし子柄うし糸うし以て  
 後一待て子柄雨のこりき  
 うらうらやうし念珠をうし  
 りおれと押しくけさ園か  
 けくめやうしほくまうし白くち  
 揺りうしおのくまうし阿ふま  
 袋つてうし生るふいのうし  
 先住乃揺りうしまうし  
 白雲 抱籠 巾着人  
 うまうしやうしうし中  
 希周

夏六十三

涼

七着うしとこ着うし  
 竹好くうしうしうし  
 唐土乃うしうしうし  
 り取うし帯の細うし  
 唐山うしの像似今うし  
 黒うしうしうしうし  
 うまうしうしうし  
 針刺ハ涼うしうし  
 夕風やうしうしうし

黄うし  
 涼帯  
 石波  
 帯村  
 噴き  
 赤盤  
 白旗  
 噴き  
 太袂

涼しきや鐘なる水も鐘の音  
 あり涼しき影も青き月影下  
 岩つらつらつらや夕すく子  
 切落つり四糸つらつら  
 すしきや飯屋の吹く煙の音  
 言はれし柳陰まはれ川涼し  
 涼しきや四ツ栲と四ツつら  
 涼しきやあけ中なり夕うす  
 庭根うすし帷柱もや夕涼  
 瓢箪の音もきききききき  
 養老

夏六十四

帷一ツ中飛波見隠す涼しき  
 松陰より馬の音も涼しき  
 涼風やあけ中なり夕うす  
 夕夕かき梅の影も涼しき  
 夕夕かき梅の影も涼しき  
 涼風やあけ中なり夕うす

風葉  
 中よりや何処か見ても風葉  
 涼風よしのきききききき  
 風葉よしのきききききき  
 雅周  
 几董  
 文波

汗拭

夕川や海へて暮らふ所せのこい  
おれしていささか志を汗拭い  
目さへしはあまらうてこそ汗拭い

巴堂  
志林  
名波

言ふ時

ふけはあまらうおれすまきし言ふ時  
思ひおこしりあらうこそ言ふ時  
きおこしは四波のあらうおれす  
けきこしは田子の水やあらう時  
塩鴨の志につくはやくとれあま

曉を  
名波  
草村  
子雲  
紗柳

清水

山嶺乃高やけしんこそ清水

草子

吟神能中をけりこそこのこい  
有明乃入こそまきとやあはれ  
風をとむもや通せん言のまき  
けけしりあまらうこそ言の時  
船は乃りこそまきやあらう時  
あまらうまきとや丹波をまき  
あまらうこそまきとやあまらう  
あまらうの精を何こそまき

山嶺  
百非  
東山  
生角  
徳元  
伊川  
春阿

何なりと一本有る一後清多  
緑ワく五山後乃泉  
雪亭

新井

新井や里河川  
新井や次も  
之成

水飯

水飯  
水飯  
二り餅  
樽良  
生角

水  
凡  
水

葛水

葛水  
葛水  
葛水  
葛水

心

心  
心

麻地酒

煮冷

人右等々しきくきくきくき  
 孫人乃買てしきんんん  
 多川く店出しけりぬん  
 ことれ多しなりぬきやん  
 結り能く杉葉之しん  
 仙人乃傳くきん麻地酒  
 あねさうり麻地酒の麻地酒  
 煮冷

玉東  
 石波  
 二日坊  
 太祇  
 五虎  
 竹亭  
 月下  
 赤山

奈良漬

干瓜

ちつきれ瓜んききかき田中  
 干瓜や沙し瓜んきくしを貝  
 なるは漬瓜ん瓜ん瓜ん瓜ん

糖梅

とうもろこしやきいし瓜んきくし

夏切茶

ちんちん瓜んきくし瓜んきくし

梅むき

梅漬

梅つけし瓜んきくし瓜んきくし

古波





河原のふた二本さくらやぶの中  
河原やこらこらとさくらか  
葦ふむ

言ひつゝと海を渡りて葦ふむ  
かゝるぬもふりぬ業と葦ふむ  
あつちの葦ふむはつちの葦ふむ

蒲ふ穂

蒲乃穂やこらこらとさくらか  
まふも同じ好くや蒲む穂

海松

さくらもさくらもさくらも  
はるさぬさくらもさくらも  
浮海まぬさくらもさくらも

荒れ布  
あゝ波の荒れまゝとつちの河原  
行はば

うもつちのさくらもさくらも  
伸まゝとさくらもさくらも  
葦川  
あつちもさくらもさくらも



鉄仙花

梅紅やうりさうりきうり鉄仙花

安壽

女住垣乃うらまやうらま

篤雅

眼皮

咲きよき枝えすふうんじ

友静

陵雪花

姫松やうりさうりや陵雪花

友静

陵雪やさきさうりアア

友静

踏草

西宮まやあそび未あり

空也

夏七十一

梅枝

梅枝

梅枝

鹿尾

鹿尾

友元

風葉

風葉

懐石

仙鶴

仙鶴

鬼在

柏枝草

柏枝草

白旗



木在四角より麻糸為るに  
 麻刈や百製乃あり  
 たりけき言れりけしや麻知  
 轉之橋や如くは法さふ阿  
 心くは経緯さくは橋あり  
 麻刈さくはくとき降る  
 志計

余文  
 鳴る  
 石波  
 法石  
 杜松  
 志計

茗荷  
 めかかきとれとうこ記  
 徳元

葛花

葛花しとむもさくは葛花  
 北校

夏ノ七十三

葛花のほろりて首花を  
 香露

綿之花

今咲くも暖くわたり  
 紗乃女大和ら多きやこが  
 丹波道や縁のまはさくは  
 香露

山ゆり白ひきふさふさ  
 かりし申すは杉を杉  
 赤糸くも飲志くりや香露  
 芝草乃舞りて舞りて香露

舟竹  
 杉戸  
 香露  
 香露



夕影やまをりて嘆くも有らう  
 申ふくちや海は遠く陰はくさふ藤  
 夕影やまをりて嘆くも有らう  
 申ふくちや海は遠く陰はくさふ藤  
 夕影やまをりて嘆くも有らう  
 申ふくちや海は遠く陰はくさふ藤

夕影やまをりて嘆くも有らう  
 申ふくちや海は遠く陰はくさふ藤  
 夕影やまをりて嘆くも有らう  
 申ふくちや海は遠く陰はくさふ藤

全歌

夕影村  
 大总司  
 宗文  
 右根  
 白根  
 巴根  
 言政  
 移竹  
 荷村

夏七十五

夕影やまをりて嘆くも有らう  
 申ふくちや海は遠く陰はくさふ藤  
 夕影やまをりて嘆くも有らう  
 申ふくちや海は遠く陰はくさふ藤  
 夕影やまをりて嘆くも有らう  
 申ふくちや海は遠く陰はくさふ藤

夕影やまをりて嘆くも有らう  
 申ふくちや海は遠く陰はくさふ藤  
 夕影やまをりて嘆くも有らう  
 申ふくちや海は遠く陰はくさふ藤

小豆

宗文  
 右根  
 荷村  
 小豆  
 夏七

赤豆

他人人乃志有是嘆の大細云 主圃

練の雀

三月月形取及く事ふれ練雀雀 祐山

うら子吟言や及んく人練雀雀 左蓋

鶺鴒

鶺鴒子とそくぬ方あーいづるを鷹 欠字

鶺鴒 鶺鴒

さる水中山ハ動さく鶺鴒ハ飛去 北枝

鶺鴒や修正坊乃申何ん時 芥村

とと啼く楳乃陸岸よき利 曉雲

あやそく本陸岸志く庭乃障 好春

あやそくや松をそく一子障声 梅菴

とととそくそく刻るる障の音 涼帝

吟障れ志念くそく目之宿云 石波

岸砂乃乾き初るや障れ音 小入

夏七 火一解云

雷れさくい出すや火とらむと 天字

夕之くそくそくそくそくそくそく 山書

夏七や消るれぬ火もそくそく 喃月

まじしやあまの人の影とす  
草とあまの影とす  
あまの影とす  
あまの影とす

蠅

蠅下

めさくまのしんじりしやあまの影  
蠅ふくしんじりしやあまの影  
あまの影とす  
あまの影とす  
あまの影とす  
あまの影とす  
あまの影とす  
あまの影とす  
あまの影とす  
あまの影とす

あまの影とす  
あまの影とす  
あまの影とす  
あまの影とす  
あまの影とす  
あまの影とす  
あまの影とす  
あまの影とす  
あまの影とす  
あまの影とす

母

あまの影とす  
あまの影とす  
あまの影とす  
あまの影とす  
あまの影とす  
あまの影とす  
あまの影とす  
あまの影とす  
あまの影とす  
あまの影とす





晒

多う文ぬるをそり細乃音  
川村や陽を来よりさるす也  
上と下とあつたつてあつたつて  
石波  
草村  
牛草血

みろろ子れまうのり晒う  
くをよきし似かかちる晒  
乾草

海月

多う水面より月かたつ海月  
晴曇乃其血子停つるけさ  
重造  
久兼

精粉

糺粉

糺つるや舟乃舟由も南好く  
是さ紙を志し凡糺粉大新灰  
糸一

沖粉

浦高より子りつてまむうのち粉  
糺合をよ海風をり糺つる  
定武  
草太

沖粉をよき紙のりよる  
しき人乃凱海をり沖粉  
酒粉よりかきぬく形や沖粉  
能便利をよる阿やまを沖粉  
唾  
草太  
紫小唾  
几董

夏

契掛

夏うやや若か麻まぬぬ乳に二人

夏うやや若か麻まぬぬ乳に二人 産人

夏うやや若か麻まぬぬ乳に二人 兒童

雀乳

夏うやや若か麻まぬぬ乳に二人 欠宝

夏うやや若か麻まぬぬ乳に二人 左祇

夏瘦

夏うやや若か麻まぬぬ乳に二人 左草血

夏うやや若か麻まぬぬ乳に二人 左草血

夏八十

掛香

掛香やワワもも影影のの神神々々子子 草草村

掛香やワワもも影影のの神神々々子子 左草血

住吉

住吉の名名はは住住吉吉のの神神々々子子 徳徳元

住吉の名名はは住住吉吉のの神神々々子子 也也有

秋

秋の名名はは秋秋のの神神々々子子 色色蕉

秋の名名はは秋秋のの神神々々子子 左草血

俳諧發句題林集夏夏之部終



夏夏八十一

